

週刊センターニュース No.266



第266号(2009年7月6日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

●●● 第237回共同学習会のご案内 ●●●

日時: 7月14日(火) 10時30分~12時(通常のカンパニイ時限と異なりますのでご注意ください。)

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

企画: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

報告者: 鈴木克徳(フロンティアサイエンス機構)、西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「金沢大学における環境教育の組織化に向けて」

趣旨: 昨年度9月、本学環境委員会の下での環境教育検討会により策定された「金沢大学における環境教育・持続可能な社会づくり教育強化の提案—持続可能な社会づくりに向けたフィールド重視の環境学—」では、本学ですでに開講されている様々な環境関連科目を組織化するとともに新規の科目の開発を行い、環境教育を強化することおよびその必要性を提言している。今回は、本提言の趣旨を理解するとともに、本提言に基づき今年度より新規に開講されている共通教育科目の紹介、戦略的学連携GPの事業の一環として検討が始まっている環境教育教材の開発、カリキュラム検討委員会で議論が開始された学際型の環境関連の副専攻の立ち上げなど、環境教育の開発の現状を紹介する。本学における組織的な環境教育を進める上でいかなる課題が存在するかについて参加者と議論したい。

●●● ED-MEDIA2009—World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia& Telecommunication 参加報告 ●●●

6月22日から27日までアメリカ合衆国ハワイ・ホノルルで開催された教育工学系の国際会議である ED-MEDIA2009 - World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunication に参加した。本国際会議は ICT を利用した教育研究が中心に報告されている。日本人研究者の参加も多く、研究者の交流と今後の教育工学研究の流れについて議論を行う場としても活用されている。

数多くの発表の中から今回のセンターニュースでは University of North Carolina の James Morrison 教授の「アクティブラーニングに対する教員の抵抗 (Addressing the problem of faculty resistance to using educational media in active learning instructional strategies)」について報告を行う。

アクティブラーニングが最近よく耳にします。私が前に所属しておりました東京大学でも KALS というアクティブラーニングを効果的に行うための学習空間が建設されておりますし、全国にこのような動きというもの広がっています。しかし、そういう空間、または通常教室であっても、アクティブラーニングに対して抵抗感がある教員がいます。なぜ教員はそういうことをやらないのかという点をみんなで考えましょうということでした。

アクティブラーニングの手法として、Problem-Based Learning(問題解決型学習)、Inquiry-Based Learning(探求に基づいた学習)、Project-Based Learning(プロジェクト学習)、Experiential Learning(経験に基づいた学習)の4つがあるのですが、通常、講義の設計においてインストラクショナルデザイナー(IDer)が学習者の属性とニーズ分析から教材の構造、内容検討などを教科専門家 (Subject Matter Expert: SME)、教材開発者、インストラクターと行い、教材開発をし(日本の高等

教育機関で導入されているところは大変少ないですが)、講義をすることが多く、「講義をする」という意味においてはそれだけで事足りるわけです。しかし、最近は動機付けから、基礎学力の向上、社会で求められる能力の育成の手法としてアクティブラーニングが世界的に注目され、徐々に行われているわけです。しかし、そういう方法をなぜほとんどの教員はやらないのだろうかという問い、それを広めるためには何をすればいいのかということとは大きな悩みになっています。

このインバイトセッションではこの問題について何か解決するための示唆が出されることではなく、アクティブラーニングに対して「抵抗」する教員がなぜ「抵抗」するのかという問いについて周りの人たちとグループを組んで、話し合うということだったのです。いろんな問題が出ていました。技術に対する抵抗感、教科によっては使えない、お金がかかる、仕事なくなるかもしれない、時間がない、サポートがない、そもそもアクティブラーニングに沿った教授法を知らない(できない)などが挙げられました。その問題解決についても教員にインセンティブをあげる、十分な授業サポート、専門の教員を雇うなどです。特にアクティブラーニングにおける教員支援と教員養成はFDの観点から検討の余地はあるように思いました。

アクティブラーニングという考え方はここ数年、注目はされていますが、新しい概念ではなく、医学・看護教育では古くから導入されていました。医学・看護教育では人間の生命に関する失敗が許されない現場で、学んだことが現場で活かされなければならないという大きな責任と義務がありますので、学習者の動機付けの話とは別に「学んだことが現場の業務遂行へ転移させる」効果が高いとされる教授法を取ってきました。近年の高等教育機関に社会から求められることとして、現場で活躍できる人材の育成というものがありますが、こういう社会のニーズに応えるという面でアクティブラーニングという手法は大変魅力的な方法だと思います。ただ、この導入については配慮すべき点が多々あり、簡単にはいかないことだと実感しました。これは日本だけではなく、世界の教育者・教育研究者も同様に感じていることです。医学・看護教育におけるアクティブラーニングに研究知見は参考になると思います。

本センターでも今後の本学における教育充実化の方法として、アクティブラーニングに注目しており、アクティブラーニングに関する調査・研究を行っていきたいと考えております。

【アクティブラーニングに関する参考資料】

- ・東京大学 駒場アクティブラーニングスタジオ(KALS) <http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/>
- ・林一雅、西森年寿、山内祐平(2008) 東京大学駒場アクティブラーニングスタジオにおける授業事例、日本教育工学会第24回全国大会講演論文集, pp847-848
- ・東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座 BEAT セミナー「プロジェクト学習が大学を変える」<http://www.beatiii.jp/seminar/035.html>

(文責：教育支援システム研究部門 山田 政寛)

〇〇〇「平成21年度教育著作権セミナー」のご案内 〇〇〇

このたび金沢大学では、放送大学学園との共催で「教育著作権セミナー」を下記の通り開催いたします。著作権制度の概要、大学教育における著作物の利用、ICT活用教育推進における著作権の課題などについて解説します。ぜひご参加ください。

日時：平成21年7月21日(火) 13:00 - 17:00

場所：金沢大学自然科学系図書館内 AV ホール

講師：尾崎史郎氏(放送大学 ICT活用・遠隔教育センター教授)

対象：大学等の教員、事務職員その他大学等の関係者、著作権に関する知識を必要とする人

※ 内容詳細・参加申込は、http://www.code.u-air.ac.jp/seminar/seminar_h21/090721/resume.htmlにてご参照ください。(当日参加も可能ですが、資料作成の都合上なるべく参加申込をお願いいたします)